

武蔵野市環境啓発施設運営会議（第6回）議事要録

日 時 令和2年10月13日（火）開会 午後7時 閉会 午後9時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員10名、事務局6名

小澤委員長、鈴木副委員長、池上委員、宮坂委員、中西委員、塩澤委員、梅田委員、越智委員、後藤委員、荻野委員

議事等

- (1) 開館に向けたオンライン会議について
- (2) 施設内での情報発信について
- (3) 11月8日配信イベントについて
- (4) 自由来館利用ルールについて（プレサポーターについて）
- (5) 第5回議事要録の確認について
- (6) 次回の日程調整について

1 委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
事務局	資料1から4について説明。
委員	資料3の情報発信企画だが、内覧会するときには見られるのか。
事務局	内覧会で一定のものが見られるように準備を進めている。資料の中で「◎」と「○」がついているものに関しては、展示物がある状態で内覧会にご案内できる。
委員	ものづくり工房の「廃材などをごみにするその前に！作ったり遊んだりして再活用しよう！」という項目では、廃材を使って作る前に材料が必要となる。ごみを素材にする、その活動自体が結構面白い。例えば古着からボタンだけ取って、同じような形や色ごとにまとめてビンに入れて並べる。それだけで素材感が出て、ものづくりを楽しみたくなるような気分が生まれる。ごみを素材にすること自体を参加型の活動にすると面白い。また運営について、「利用者が運営者にもなる」という視点で、利用者が、時間が空いたときに来れば、ごみを素材にするような仕事があって楽しめるプログラムを考えてはいかがか。そういったプログラムがあると、利用者が運営者になることにもつながり易いと思う。開館までにとということではなく、いずれはそうなるとうい。

委員長	以前の会議体でクリーンセンターへ行ったことがあるが、クリーンセンターのごみも、全てが資源からできていることを認識していくプロセスが大事という話だったと思う。
委員	廃棄物の安全性が気になった。子どもたちが触っても大丈夫なように、誰が、どうするのかが分からなかったので、ご紹介いただきたい。
事務局	牛乳パック、リボン、ボタン、端切れのようなものでクリスマスリース作りを考えている。これは準備しているものがあって、当座はそれを使っていく。新たに入ってくる材料の安全性は、サポートしていただくスタッフを集め、一緒にチェックして安全なものを使っていただくようにしたい。
事務局	議題2（1）「自由来館の利用ルールについて」の説明。
委員	ペットボトル持ち込み禁止というような、ペナルティー的なルールもあるし、逆に、マイボトル持参で、飲み物がフリーで飲めるなど、インセンティブにつながるようなルールもあっていい。
委員	活動自粛下でイベント・式典の開催はとても難しいと思うが、開催に期待している人は多い。配信という手立てで開催するようだが、どの程度縮小して、どのくらいの団体に絞ったのか。
事務局	ご招待は30人くらいに絞っている。施設検討の段階から関わってくださった周辺協議会や運営協議会などからは正副委員長・会長、議会から正副議長や厚生委員、また地域の関係団体の委員長・会長に招待状を送付し、それ以外の方には内覧会をご案内している。
委員	生配信の開催時間などについて、ホームページなどを使って、もっとPRをするとよいのではないか。
事務局	チラシの配布等の準備を進めているので、案内を送りたいと思う。
委員	教育の立場から言うと、ごみ箱を取り上げてしまうようなことより、マイボトルの持参でメリットがあるような、前向きな行動につなげて考えるチャンスを与えるほうがよいのではないか。
委員長	来館した人たちの行動が、どう環境と結び付いているかを考え、行動に移すヒントを与えるような表現がよい。
委員	例えば、ごみ箱の種類をたくさん用意して、紙のごみや他のごみなど、これをここに捨てることによって何が起こるのか、そういうものを関連付けるような情報があると、そこで捨てることはないと思う。短絡的に考えたら、ごみ箱がなかったらどこかに捨てちゃう、みたいなことも起こりうる。ごみ箱を取り上げて考えさせるよりも、捨てる行動を起こす時に、どうしようかなと考えさせる方がよいのではないか。今日はここで捨てるけど、次回はごみを出さないようにしようと

	<p>いう考えに自分で至る方がよい。</p>
委員	<p>論題がずれるかもしれないが、展示がおとなしくてインパクトを受けないのではないかという心配をしている。下水や廃棄物の処理などの迷惑施設は他の自治体をお願いしていて、地球温暖化を感じにくい環境にある武蔵野市民には、自然災害の写真など、もっと地球温暖化問題を考えさせるインパクトのある展示があってもよいのではないか。</p>
副委員長	<p>同じような意見だが、開館間近なので、展示はあまり考え過ぎなくてもよいと思う。ルールについても、最初から何かいろいろ制約があると、そればかりが印象に残ってしまう。今決めても、平常時につながる可能性は少ないので、最小限のルールだけ決めればよいと思う。</p>
委員	<p>環境の施設だから、環境のことに貢献できるルールというのは面白いと思ったが、環境以外のルールも考えてほしい。緑町コミュニティセンターでは、予約がないときの部屋を「ひろば利用」として、自由に利用できるようにできないかと試験的に行った。その際、3つだけルールを決めた。「あいさつをする」、「内輪だけで楽しまない」、「公序良俗に反することはしない」だ。この「内輪だけで楽しまない」というのがポイントで、1年ぐらい実践して、子どもたちにも同じことを言ってきた。ある小学生は持ってきたお菓子をそこにいるみんなに配っていて、小学生でもそういう配慮をしているということがすごく印象に残っている。例えば、サークル活動をしている人たちは、内輪だけで盛り上がっているのだから、そこに入れたい人は排他的な印象を受けたりする。そういう場所じゃないことを前提にしてこの場所を分かち合って使ってもらいたいと思う。コミュニティセンターではそれを周知するためのチラシを配布していた。同じように、まず基本を決めて、利用者の方に意識してもらうにはどうしたらよいかを考えるべきだと思う。</p>
事務局	<p>議題2 (2)「プレサポーターについて」説明。サポーター制度が運用できない中での開館となり、職員の補助・サポートをしていただくプレサポーターの運用を始めたい。サポーターの試行的な意味もある。具体的には、感染症拡大防止のための消毒や検温、展示物の作成、施設内の子どもの見守り等を想定している。公募はせず、連携会議参加の方々や環境の学校の受講者など、施設の歴史・環境についての一定の知識を持った方に協力を呼び掛けていきたい。</p>
委員長	<p>「プレサポーター」という名称がいいかどうか。「アソシエイトサポート」ではないかと感じたがいかがか。</p>

委員	「差し当たって手伝ってください。将来的には運営の一端も担っていただきます」と伝えて、手伝ってほしいことを提示し、集まった人たちが考え進めるようにしていけば、次につながるのではないか。
委員長	他に意見はあるか。
委員	エコreゾートでは、自分たちでルールをつくり出す方がよい。市や行政が先導するのではなく、一人ひとりが自ら環境に配慮した行動を考えるような場所になるとよい。エコreゾートの施設を使うことで、環境に配慮した行動へとつながる考えを持ってもらえるようにするには、ルールをつくるばかりではなく、体験しながら、失敗しながら、みんなの行動からルールができあがっていくようにしたらよいと思う。

2 その他

(1) 第5回議事要録の確認について

発言者	要旨
事務局	修正が間に合わなかったので、修正前の委員名の入ったものになっている。発言箇所を確認していただき、修正があれば、23日（金）までにご連絡いただきたい。修正の上、委員名を消したものを再度ご確認いただき、問題なければ資料公表する。

(2) 次回日程調整について

発言者	要旨
事務局	日程調整の結果、今回は12/10（木）18時からに決定。